

通し番号	5066
------	------

分類番号	R02-C8-34-02
------	--------------

(成果情報名) 酒匂川濁流影響調査結果について	
[要約] 平成22年9月の台風9号通過に伴う集中豪雨により酒匂川から流入した濁流が、漁場環境や水産資源に及ぼす影響を把握するための調査を開始した。 酒匂川河口直下では、濁水発生後から平成26年度までは粘土シルトを主体とする細粒分が多くなり、COD、強熱減量及び全硫化物量の値もやや高めに推移した。また、底生生物の汚濁指標種も濁水発生後には、強汚濁、弱汚濁海域で生息する種がみられた。 現在は、平成22年度の濁流の影響は殆ど確認できなくなったが、酒匂川河口沖は台風等による出水により底質環境や底生生物相が変化しやすい海域であることが明らかとなったため、今後も再び濁流等による大きな環境の変化が起きた場合に備え、調査を継続中である。	
(実施機関・部名) 神奈川県水産技術センター・相模湾試験場	連絡先0465-23-8531

[背景・ねらい]

平成22年9月の台風9号通過に伴う集中豪雨により、酒匂川からの大規模な濁流の発生が相模湾の漁場環境や水産資源に及ぼした影響と回復過程を把握する。また、再び起こりえる大規模な環境変化に備えて現状を把握する。

[成果の内容・特徴]

- 平成22年の濁流発生から現在までの底質環境（粒度組成、COD、強熱減量、全硫化物量）と底生生物相の変遷を明らかにした。
- 酒匂川河口沖のSt.1では、平成22年9月の台風9号通過に伴う濁流の発生後に、底質の粒度組成が粘土シルトを主体とする細粒分が多くなり、COD、強熱減量及び全硫化物量の値もやや高めに推移した。
- 平成26年度には、底質の粒度組成の粗粒化し底質環境の改善が見られたが、平成27年度以降も台風等による酒匂川の増水後に、粘土シルトの割合やCOD等の数値が上昇する傾向が見られた。
- 底生生物の汚濁指標種では、濁水発生後に強汚濁海域及び弱汚濁海域で生息する種が確認されたが、平成26年度以降はこれらの種が減り、強過栄養海域で生息する種数が増え、環境の改善が伺われた。
- 濁流とともに多くの流木が酒匂川から海域に運ばれ、主要な刺網漁場にも堆積したが、漁協等による撤去作業の結果、平成29年度以降は平成22年の濁流発生由来の流木等の堆積物は殆どなくなったことが潜水及びROV調査により確認できた。
- ただし、令和2年9月では河川由来と思われる小さな流木等がSt.1周辺で認められ、全硫化物量、COD及び強熱減量が高い値を示すなど、7月の増水による多量の土砂や有機物の流入が要因と推測された。

[成果の活用面・留意点]

- 1 再び濁流の発生が起こった時に対策を講じるための基礎資料となる。
- 2 災害等の発生前の状況を把握しておくことにより、災害後の復旧対策に役立つ。
- 3 台風や大雨等の増水により今後も底質環境の悪化に引き続き注意が必要である。

[具体的データ]



図1 調査地点

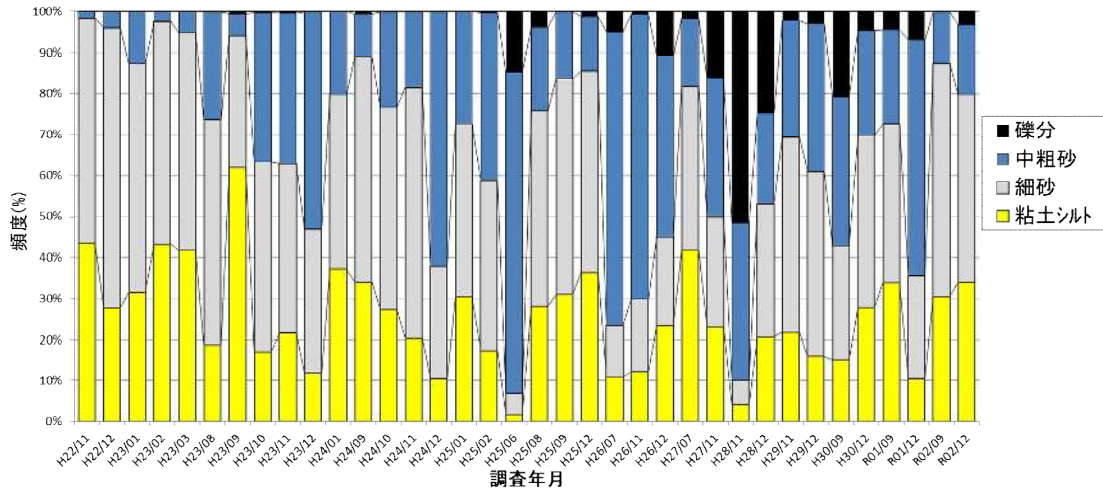


図2 底質の粒度組成の経年変化 (St.1)

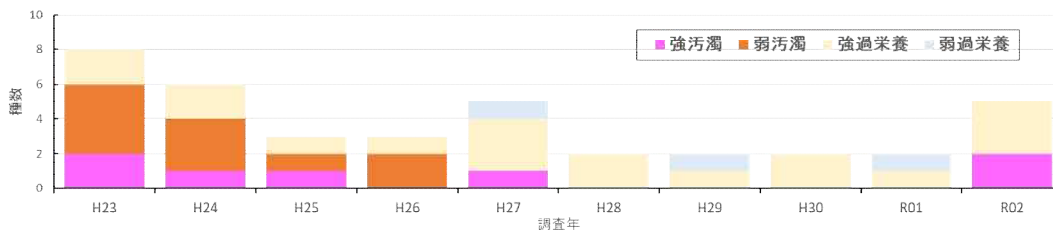


図3 汚濁指標生物の種数の経年変化 (St.1)

[資料名] 洪水による沿岸漁場環境への影響 (水産海洋研究第76巻第3号 H24.8)

平成23～令和2年度酒匂川濁流影響調査報告書 ((公財)相模湾水産振興事業団委託事業)

[研究課題名] 酒匂川濁流影響調査

[研究期間] 平成23年度 ～ 令和7年度

[研究者担当名] 蓑宮 敦・木下淳司・原田 穰・相澤 康・山本章太郎